

1. 位置と自然環境

(1) 位置

最上地域は、山形県北東の内陸部に位置し、北は秋田県南部、東は宮城県北西部に接している。管内の中心都市、新庄市までの県内主要都市からの距離（鉄路）は山形市から61.5km、酒田市から55.2km、米沢市から108.5kmである。

地域の総面積は、1,803.23km²で、県全体の19.34%を占める。これは、大阪府や香川県の面積にほぼ等しい。

1市4町3村（新庄市・金山町・最上町・舟形町・真室川町・大蔵村・鮭川村・戸沢村）の最上地域は、1622年の最上氏の改易により、村山郡の一部とともに戸沢政盛が治めた。以後今日に至るまで新庄市を中核とした最上生活圏を形成しており、行政上は新庄市及び最上郡からなる。

(2) 地勢

最上地域は、周囲を高く険しい山々に囲まれ、総面積に対する森林の割合が8割近くを占め、西部には鳥海国立公園の主峰鳥海山（2,236m）や、磐梯朝日国立公園の月山（1,984m）に代表される出羽山地、東部には栗駒国立公園の神室山（1,365m）に代表される奥羽山脈、さらに、北部は加無山（997m）に代表される加無山県立自然公園がある。

南部から西部にかけては、4市町村にわたり最上川が貫流している。最上川には、小国川、鮭川、銅山川等の中小河川が合流し、その扇状地には新庄盆地や、向町盆地などの平地が形成され、そこに農地や集落が散在している。

8市町村の配置は、新庄市が地域のほぼ中央に位置し、4町3村が放射状に展開している。土地利用状況（令和2年10月1日現在）は、農用地が9.9%、森林が80.0%、道路・宅地が3.2%、その他が6.9%である。

(3) 気象

最上地域は、夏は一般に高温多湿で、冬は最上川の峡谷にそって日本海からの北西の季節風の影響が大きい積雪寒冷地帯である。他の地域と比べると、年平均の降水量は多い傾向にあり、日照時間は県内4地域（最上・村山・置賜・庄内）の中で最も短い。

【観測地点毎の気候統計値（令和3年）】

項目	単位	最上				村山 (山形)	置賜 (米沢)	庄内 (酒田)
		新庄	金山	向町	肘折			
平均気温	°C	11.7	11.0	10.9	9.7	12.7	11.7	13.7
年降水量	mm	2,137.0	1,944.5	1,815.0	2,312.0	1,037.5	1,375.0	2,093.0
平均風速	m/s	2.8	0.9	2.0	1.2	1.9	1.4	4.3
年日照時間	時間	1,486.5	1,379.8	1,366.7	1,274.7	1,734.5	1,558.6	1,784.9
最深積雪	cm	155	131	145	342	57	134	58

資料：国土交通省気象庁

【過去10年間の気象状況】

